

研究結果

日本における「批判仏教」の研究一本覚思想を中心として－

本研究は、文献解読と当事者に対するインタビューとの両面から行われており、その成果の一端は「日本批判仏教の最新の発展とその理論的意義」（『世界宗教研究』2007 年第 6 号）という研究論文において既にまとめられている。

本論文は「批判仏教」という思想の流れを遡りつつ、社会批判・仏教批判・哲学批判という三つの側面を検証し、その思想的及び社会的な背景を探ることを主眼とする。また「批判仏教」をめぐる論争を如来蔵思想・本覚思想・有の論理・仏教研究方法論という四つの論点にしばって検討し、「批判仏教」の理論的貢献と問題点を論じた。つまり、「批判仏教」は、近現代理性主義の立場から本覚思想がいかに関連を脱していないかを鋭く指摘する点においてはその正当性が見られるが、本覚思想と至思想との関連や、インド・中国・日本における本覚思想の多様なあり方の相違に対する分析の欠如、といった反省点も有しているのである。さらに、本論文は、「批判仏教」をめぐる論争の根底には、仏教とは何か、という問題に対する理解の相違が横たわることも指摘した。「批判仏教」の代表的な論者は次々と新たな研究成果を出しており、その思想体系もいわば進行中のものである。したがって、本研究はあくまでも段階的な考察に留まざるを得ない憾みがある。今後も継続的に「批判仏教」に対する正確な評価をするためには、よりいっそうの緻密な研究を要することとなるであろう。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 （題名・発表者名・会議名・日時・場所等）：

論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）：

「日本批判仏教の最新の発展とその理論的意義」（『世界宗教研究』2007 年第 6 号）

書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等）：